

新型コロナウイルス検査の全自動化システムを開発、検査の負担軽減、信頼性向上、迅速化へ

東京農工大学は、遺伝子解析の自動化技術開発を、千葉県企業であるプレジジョン・システム・サイエンス株式会社（PSS社）と共同で行ない、2020年3月10日に全自動PCR装置「geneLEADシステム」を発表した。



geneLEAD VIII の外観図

このシステムを用いることで、鼻咽頭拭い液や喀痰などのサンプル・試薬をセットし、核酸抽出、抽出した核酸の増幅および検出までの一連の処理を自動的に行われます。これによって、PCR判定の完全な自動化が可能となりました。

分析時間は2時間10分であり、分析時間の短縮は限定的です。しかしながら、全自動であることから、検査者の負担を大幅に減らすことが可能となります。また、同時に、Human Errorを低減することで、解析結果の信頼性の向上も期待できます。さらに、小型の装置であることから、病院などに設置することで、感染が疑われる患者の迅速検査への利用が期待されます。

geneLEAD システム紹介ページ <http://www.pss.co.jp/product/genelead/lead8.html>

日本語発表原文

http://www.tuat.ac.jp/outline/disclosure/pressrelease/2019/20200313_01.html

文 JST 客観日本編集部